

ティーボール



場所	人数	対象年齢	運動強度
屋内 屋外	1チーム 10~15名	小学生	中度

特色

ティーボールは、野球やソフトボールに極めて類似したゲーム。ティーボールが野球やソフトボールと大きく異なるところは、ピッチャーが投げるのではなく、本塁プレートに置いたバッティングティーにボールをのせその止まったボールを打者が打つこと。したがって、このティーボールになじむことは、子供たちの野球やソフトボールに対する興味の下地にもなる。

用具

<ボール> ケンコーティーボール

<バット> プラスティック

<バッティングティー>



コート

※守備位置は、右の図の通り

バッターズサークル：本塁プレートを中心として、半径3メートルの円を描く。
打者は、この円の中で打撃を行う。



競技方法

- 1 試合は原則として次の3通りとする。人数は10～15名とし、両チームの数を合わせる。
 - (1) 2チームが攻撃と守備に分かれ、攻撃側の全打者が攻撃を完了した時点で攻守を交代し、規定の回数(3回～5回)を終えた時、得点の多いチームが勝者となる。スリーアウト毎に塁上の走者はベンチに返す。最終回の残塁者はこの限りではない。
 - (2) 2チームが攻撃と守備に分かれ、攻撃側の全員の攻撃を完了した時点で攻守を交代し、規定の回数(3回～5回)を終えた時、得点の多いチームが勝者となる。残塁の走者は次回に受け継ぐ。最終回の走者はこの限りではない。
 - (3) 2チームが攻撃と守備に分かれ、第3アウトが成立することによって攻守を交代し、規定の回数(3回～5回)を終えた時、得点の多いチームが勝者となる。
 - 2 攻守の決定は、試合前に審判員立会いのもと、ジャンケンで決める。
 - 3 得点
走者がその回終了までに、正しく1塁、2塁、3塁、本塁に触れた場合1点が記録される。なお1塁、2塁、3塁の駆け抜けは認められている。
 - 4 アウト
バッターまたは走者は、次の場合にアウトとなる。
 - (1) フェア区域・ファウル区域にかかわらず、打ったボールが地面に落ちる前に守備側に捕られた場合、バッターはアウト。
 - (2) 守備側がゴロを捕球して投げたボールが、打ったバッターよりも先に一塁側に到着した場合、または後ろの走者に押されて進塁してくる走者より先に、そのベースにボールが到着した場合、走者はアウト。
 - (3) 塁を離れた走者に、ボールでタッチした場合、その走者はアウト。
 - 5 注意事項
 - (1) 審判が「プレイ」を宣言した後、打者はバッティングティーに載ったボールを打つ。
 - (2) 打者がティーを打ってしまった場合、ファールも1ストライクとなり、2ストライクの場合のファールはアウトになる。
 - (3) 走者は打者が打った後、離塁することができる。
 - (4) 盗塁、リードは無い。
 - (5) バントやプッシュバントは無い。
- ※1 尚、このルールは、日本野球連盟と富山県ティーボール連盟が野球の普及のために考案したものであり、ルールについては、柔軟に対応できる。
- ※2 ティーボールは、2000年国体のデモンストレーション種目として舟橋村で開催された。